

第3学年社会科學習指導案

平成〇〇年〇月〇日
〇年〇組児童数〇〇名
指導者〇〇〇〇

1. 単元名 「事故・事件のない街を目指して」

2. 単元の目標

- 事故の防止について、見学・調査したことをまとめるとともに、関係機関が地域の人々と協力して防止に努めていることや連携して対処する体制をとっていることを理解する。(技能・理解目標)
- 安全を守るための関係機関に従事している人々の工夫や努力を考え、スクラッチを使って表現するとともに、地域社会の一員として事故の防止のためにできることを考える。(思考表現・態度目標)

3. 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の 技能	社会的事象につ いての知識・理解
①地域社会における事故、犯罪の防止のための諸活動に関心をもち、意欲的に調べようとする。 ②地域社会の一員として地域の人々の安全な生活の維持について考えようとしている。	①地域社会における事故、犯罪の防止のための諸活動の様子から学習問題を見出して追究している。 ②人々の安全を守るために関係機関の働き、そこに従事している人々や地域の人々の工夫や努力について、思考し判断したこと適切に表現している。	①地域社会における事故、犯罪の防止のための諸活動の様子を的確に調査、見学したり、具体的な資料を活用したりして、必要な情報を集めて読み取ったりまとめたりしている。	①人々の安全を守るために関係機関の働きとそこに従事している人々の工夫や努力を理解している。

プログラミング学習の評価規準

論理思考力	プログラミングの技能
①意図したことを実現するために、必要なプログラミングを筋道を立てて作り上げている。	①ブロックを適切に組み合わせることができる。 ②ローマ字表を見ながらローマ字入力ができる。

4. 単元観（プログラミング学習との関連）

社会科は、「つかむ」→「調べる」→「表現する」→「まとめる」の問題解決的な学習過程で、社会の一員としての資質を育てる教科である。従来の社会科では、「表現する」活動において、新聞やパンフレットづくりが行われてきた。この「表現する」手段の1つとして、プログラミングを活用できるのではないかと考えた。プログラミングによる表現は、新聞などと異なり、視覚的に動きが生まれるので、児童の表現の幅が広がると考えた。

交通事故はいつ自分にふりかかってくるかわからない点で、どの児童にも関心をもたせ、追及する意欲を喚起させやすい単元である。交通安全施設の調査や警察署の見学など体験的な学習活動を通して、地域の安全を守るために計画的な配慮に気付かせたい。

一方、施設や制度に頼るだけでは事故から身を守ることができないため、法やきまりを遵守したり自分の身を守る意識を高めたりすることも求められる。地域社会の一員として自分たちにできることは何か考え、それをスクラッチを用いて表現させたい。スクラッチを用いて表現したポスターを来年度の交通安全教室で紹介することで、地域社会の一員として考えようとする意欲とスクラッチで表現しようとする意欲を共に高められると考えた。

5. 児童の実態

(1) 社会科學習について

3年生から始まった社会科學習では、実際に調査・見学する學習活動を各单元で設定してきた。2

学期の地域の生産・販売についての単元では、グループに分かれて町工場を見学したり、家庭での買い物の工夫を調査したりするなどの学習活動を設定してきた。どの児童も意欲的に取り組み、自ら疑問をもってインタビューをする姿が見られた。

本単元でも、実際に交通安全施設を調査したり、警察署の仕事を調べたりする学習活動を通して、児童の意欲を高め、理解を深めていきたい。

(2) プログラミング学習について

2学期では、社会科・地域の生産の単元で、見学した町工場のすごいところを伝えるポスターを、スクラッチを用いて、3人組で協力して制作した。「旗がクリックされたとき　ずっと　もし～なら「〇〇」と言う」というプログラミングを基本にどのグループもまとめることができた。

また、2学期の国語科では、自作した物語を紹介する予告編をスクラッチを用いて制作した。文字の大きさを変えたり動きを変えたりするプログラミングの方法を身に付けることができた。

本単元では、3年生で学習した集大成として、これまで学んだプログラミングの方法の中から、自分の伝えたいことを表現するのにより効果的なプログラムを考えて選択できる児童を育てていきたい。

6. 研究主題に迫るための具体的な手立て

(1) 論理的思考力の育成

必要なプログラミングを筋道を立てて作り上げができるようにするために、見通しをもたせることが必要であると考えた。そこで、児童に見通しをもたせるために、二つの手立てを考えた。

一つ目は、4月から本単元の学習までに身に付けたプログラミングの方法を冊子にまとめ、「スクラッチノート」として児童一人に一冊持たせることである。これにより、児童は身に付けた方法を常に振り返ることができ、自力解決でプログラミングを作り上げようとするのではないかと考えた。

二つ目は、意図したことなどをどのように表現するか設計図を書かせてからプログラミングに取り組ませることである。これにより、プログラミングの手法にこだわるだけでなく、自分の伝えたいことを常に振り返ることができると考えた。

(2) 文化的創造力の育成

児童が意欲をもって自分の思いを作品化できるようにするために、「来年度の3年生に交通安全を呼びかけるポスターを作ろう」という課題を設定した。また、3年生の学習の集大成としてこれまで身に付けたプログラミングの方法の中から自分で必要なプログラミングを選択させたい。そこで、プログラミングの活動に十分な時間を確保できるよう、2時間の設定をした。

(3) コミュニケーション力の育成

単元を通して、困った時に相談したり、より良い表現方法をアドバイスし合ったり、発表の時にサポートしたりする存在としてトリオの友達を設定して学習に取り組ませる。トリオは、プログラミングのスキルやコミュニケーションのスキル、日頃の人間関係を考慮して担任が設定した。

(4) 表現力の育成

プログラミング学習のトリオを発表の際も活用する。内容を発表する役割とコンピューターを操作する役割を分担することで、発表者が分かりやすく発表することに専念できるようにした。また、トリオで発表の仕方を相互評価しながら準備することで、表現力を高められるようにした。

7、学習指導計画（12時間扱い）

次	時数	学習内容	指導上の留意点	☆支援◇評価【評価方法】
1 （つ か む）	1	○グラフから読み取ったことをもとに、交通事故を防ぐための取り組みについて 関心をもつ。	・品川区内の資料を示すことで、関心を高める。 ・グラフの大まかな特徴をとらえられるよう、グラフの読み方を示す。	☆グラフを読み取る観点を示し、どの児童も考えをもてるようにする。 ・〇年と〇年を比べると… ◇交通事故の実態について意欲的に調べようとしている。【ノート】

2 (調べる)	(家庭学習)	○学校や家のまわりの交通事故を防ぐための施設を調べ、記録する。	・1週間継続して記録できるよう家庭学習とする。 ・書き込みのできる学区域の地図を用意する。	☆写真を示し、実際に調べる際の視点を示す。 ◇交通安全施設の様子を意欲的に調べ、記録している。【学習カード】
		○調べてきた交通安全施設の様子を発表し、気付いたことや考えたことを話し合う。	・交通安全施設を観点ごとに分類して黒板に示し、設置されている理由を考えられるようにする。	☆写真や地図を示し、実際の様子を想起しやすいようにする。 ◇施設が道路事情に応じて設置されていることを理解している。【発言】
		○品川区内の交通事故原因の表から、警察署の人々の仕事に関心をもち、調べる計画を立てる。	・品川区内の資料を示すことで、児童の身近な社会事象を想起させ、関心をもたせる。	☆警察署の仕事について予想させ、調べたいことを考えさせる。 ◇資料を読み取り、調べたいことを表現している。【ノート】
		○警察署を見学し、警察署の仕事をについて調べる。	・見学が難しい場合も、資料を用意して具体的に調べられるようにする。	◇見学して分かったことをメモに記録している。【ノート・記録用紙】
2 (調べる)	6	○調べて分かったことを発表し、警察署の人々の仕事をまとめる。	・関係諸機関との連携についても目を向け、まとめさせる。	☆写真を示し、想起しやすくする。 ◇交通事故を防ぐための警察署の仕事を理解している。【発言・ノート】
	7	○地域の人々が協力して地域の安全を守っていることを理解する。	・児童に身近なものを示して地域とのつながりを実感させる。	☆写真を示し、想起しやすくする。 ◇交通事故を防ぐための地域の取り組みを理解している。【ノート】
3 (表現する)	8	○交通事故をなくすために自分たちにできることは何か考え、スクラッチで表現する言葉を考える。	・上手なポスターは、来年度の3年生の交通安全教室で紹介することを伝え、スクラッチで表現する意欲を高めさせる。	◇交通安全のために自分にできることを意欲的に考え、スクラッチで表現する言葉を考えている。【ワークシート】
	9	○スクラッチでどのように表現するか、設計図とそのために必要なプログラミングを選択する。	・これまで学習したプログラミングの方法を振り返らせる。(字の拡大、回転、スクロール)	◇プログラミングの完成予想図を書いている。【ワークシート】
	10 ・ 11 (本時)	○交通安全を呼びかけるポスターをスクラッチで表現する。	・思った通りにプログラミングできない時は、①手引きを見る。②友達に聞く。③先生に聞く。の手順で解決するよう示す。	☆ローマ字入力が苦手な児童には、事前にローマ字表記した言葉を書かせて入力できるようにする。 ◇交通安全を呼びかけるための適切な表現方法を考え、プログラミングに取り組んでいる。【スクラッチ】
4 (まとめる)	12	○できたポスターを発表し合い、自分が地域の安全な生活のためにできることはないか考える。	・工夫したところを発表させてから、ポスターを見せるようする。 ・ポスターを見た感想を交流させ、安全な生活を維持する意欲をもたせる。	☆感想を記録させ、互いによく聞き合えるようにする。 ◇スクラッチで表現した交通安全ポスターをもとに、自分が地域の安全のためにできることを考えている。【ワークシート】

7. 本時の学習（11／12時間）

(1) ねらい

- スクラッチを用いて、交通安全のために気を付けることを表現する。
- 自分の考えを効果的に表すためのプログラミングを選択する。

(2) 展開

	主な学習活動	指導上の留意点	☆支援◇評価【評価方法】
導入	1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。 (前時から2時間続きのめあて) 来年の3年生に交通安全を呼びかけるポスターをスクラッチで表現しよう。 (本時のめあて) 作ったポスターをペアで発表し合い、自分の作品を完成させよう。		
	2. 学習の進め方を確認する。 ・思った通りにプログラミングできない時は、 ①手引きを見る。 ②ペアの友達に聞く。 ③先生に聞く。 の手順で解決するよう示す。		
展開	3. 考えた設計図をもとに、スクラッチで表現する。 (個人タイム)	・自分の意図したことから離れた予告編を作らないよう、前時で作ったワークシートやプログラミングの手引きを振り返らせる。	☆ローマ字入力が苦手な児童には、事前にローマ字表記した言葉を書かせて入力できるようにする。 ◇交通安全を呼びかけるための適切な表現方法を考え、プログラミングに取り組んでいるか。 【スクラッチ】
	4. 作ったスクラッチをペアで発表し合う。 (ペアタイム)	・完成していなくてもできたところを発表するように声掛けをする。 ・感想の伝え方の例を示し(①よいところを伝える。②質問する。③自分の考えを提案する。)、どの児童も感想を伝えられるようにする。	☆早く終わったペアは、ペアを変えて発表したり感想を伝えたりして良いことを伝える。 ◇友達と感想を伝え合い、より効果的な表現方法について考えを広げているか。 【発言・ワークシート】
	5. ペアで発表して気付いたことをもとに、自分の作品を完成させる。 (個人タイム)	・ペアで交流して気付いたことをワークシートに記録させ、自分の作品をどのように修正するか意識させる。	☆早く終わった児童は、発表の準備をして良いことを伝える。
まとめ	6. 学習を振り返り、次時の学習活動を知る。	・ペアで発表し合ったことで、自分の作品がどのように変化したか、感想をたずねる。	◇交通安全を呼びかけるためにプログラミングを用いて効果的に表現できたか。 【発言・ワークシート・スクラッチ】